

## 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(748)1133
担当部課名	環境事業部	南清掃工場	所	管理係
事務事業名	施設維持補修費(南清掃工場)		事業コード	21220

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	人と自然にやさしい地域社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第2節	リサイクル型社会の構築	~63年度
施策名	第2施策	廃棄物の適正処理の推進	

## 2 実施根拠及び関連法令等

廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係法令、大気汚染防止法等の環境基本法、ダイオキシン類対策特別措置法等

## 3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
焼却施設各プラントの耐用年数等を考慮し、計画的にその機能・能力を保持するための維持補修を行うことにより、市収集ごみ・市内事業者が搬出するごみ等を衛生・適切且つ計画的に焼却処理することを目的とする。		市民および市内事業者	
		対象数	
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・総事業費 334,525(千円)</li> <li>  (需用費) 319,521(千円)</li> <li>    ・修繕料 319,521(千円)</li> <li>  (工事費) 14,805(千円)</li> <li>    ・維持補修 14,805(千円)</li> <li>  (原材料) 199(千円)</li> <li>    ・維持補修用 199(千円)</li> </ul>		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度~年度

## 4 評価指標

指標名	計画修繕の達成率		
指標式	計画修繕実施件数 / 計画修繕当初予定件数 × 100		
指標設定の意図	建て替えを控えた中で、各プラントの耐用年数を考慮して計画した修繕の適切な執行。		

## 5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	93.9	93.2	a 100.0	b 100.0	100.0	
指標			c	d		
指標			e	f		
事業費	決算(予算)額	390,098	360,947	334,525	334,525	323,061
	人員・時間数	774h	899h	824h	824h	
	人件費	3,236	3,758	3,445	3,445	
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	393,334	364,705	337,970	337,970	323,061
特定財源	0	0	0	0	0	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 A ▼	A : 達成している ( 100%)	= 、 、 の平均値 = 100.0%	
	B : 一部達成していない(100%> 80%)		
	C : 達成していない (80%> )		
$\frac{a}{b} \times 100 = 100.0\%$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$	
理由 :	工場耐用年数を考慮し策定した当初の計画修繕が全て予定通り実施され、搬入された廃棄物を適切に処理することが出来た。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A : 適応している	理由 :	取り巻く環境問題の中、各種排出ガス規制値をクリアしながら、人口増に伴う焼却処理量を適切に処理出来ている。
	B : 一部適応していない		
	C : 適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A : 妥当である	理由 :	計画修繕部を精査し決定することで歳出削減に努めることが出来ている。
	B : 一部妥当でない		
	C : 妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 B ▼	A : 代替の可能性ない	理由 :	ダイオキシン対策工事実施時など、近隣他市施設との連携の必要性、焼却プラントの特殊性などの要因があるため。
	B : 代替の可能性低い		
	C : 代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A : 満足できる	理由 :	市民が排出する廃棄物を適切に処理出来ている点については満足を得られるものと思われるが、昨今の環境に関するメディア報道等、近隣に居住する市民からの不安視は依然根強いと思われる。
	B : 一部満足できない		
	C : 満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A : 有効である	理由 :	ごみの焼却処理における公害問題は切り離すことが出来ず、これからの安心した市民生活を保障するという点でも必要不可欠な事業である。
	B : 一部有効である		
	C : 有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> 本工場の焼却プラントは20年以上前のシステムでもあり、最新の設備導入が必須である。
	<p>コスト改善余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	<p>説明 :</p> 歴年経費の削減に努めてきているが、焼却量の増大、法規制値の遵守という点からは限界に近い状況と判断する。

7 総合評価

評価	AAA ▼	他自治体の類似事業との比較	近隣市については、建設年度の差異により、導入しているプラント種類・規模など一概には比較することが出来ない。
今後の進め方		説明	ダイオキシン類への対応、南清掃工場の建替など、新たな問題が発生してくる中で、適正な廃棄物の処理のために、現在のプラント能力を最低限維持せねばならない状況であり、公害発生予防に対する必要経費が本事業の役割であり、その成果は非常に大きいと言える。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--